

NEWS

2001.4~10

交流

◆ソウル大学校音楽大学と芸術国際交流協定を締結

四月二十四日、ソウル大学校音楽大学から金旻学長、金炯培副学長、李誠載名誉教授、本学からは澄川学長、伊藤副学長、高橋音楽学部長が出席し、本学において芸術国際交流協定の調印式が行われた。

ソウル大学校音楽大学は、創立当初より韓国の音楽教育機関の中でも有数の名門校で、ソウル大学校芸術大学音楽学部が一九五三年の大学組織再編により、声楽科・作曲科・器楽科・韓国音楽科の四学科七講座を有する音楽大学となり、現在に至っている。

なお、今回の調印により、本学の交流協定締結校（大学姉妹校）は、八ヶ国十二大学となった。

◆皇太子殿下が大学美術館

「よみがえる日本画」展を鑑賞

六月四日、皇太子殿下が大学美術館で公開中の「よみがえる日本画」展を鑑賞された。

殿下は、澄川学長の案内で工藤文部科学省高等教育局長、海老沢NHK会長、内林NHKプロモーション社長の出迎えを受けられた後、文

化財保存学の田淵教授の解説で法隆寺金堂外陣壁画の阿弥陀浄土図（模写）や横山大観が模写した牧谿作「観音猿鶴図」、狩野芳崖作「悲母



観音」などを鑑賞された。

◆ポーランド共和国文化・国家遺産大臣一行が本学を表敬訪問

八月三十日、ポーランド共和国アンジェイ・ジェリンスキ文化・国家遺産大臣、イェジ・ポミヤノフスキ駐日大使、ミロスワフ・ウツチコ文化担当書記官一行が来学し、澄川学長・永井事務局長・古嶋音楽学部教授ら大学関係者と懇談した。

これは、一九九九年（平成十一年）四月から二年間、客員教授（外国人教師）としてピアノ実技授業を担当される他、シヨバン没後百五十年を記念して音楽堂において全十二回に渡り開催した「二〇〇〇年シヨバン全曲演奏会」を



企画・監修・演奏される等、本学のみならず、我が国の音楽界やポーランドとの国際交流においても多大な貢献をされた故ハリーナ・ツェルニーステファンスカ先生（本年七月一日に母国ポーランドで逝去。享年七十八歳）の功績をしのび、両国の一層の交流を発展させたいとの大臣の希望により実現したものである。

◆退官記念

「そのりのあるかたち 澄川喜一展」オープニングパーティを開催

九月六日より大学美術館で始まった退官記念「そのりのあるかたち 澄川喜一展」のオープニングパーティが、同日夕刻、上野精養軒において開催された。

七百人を超える招待者が見守る中、会は宮田美術学部長の挨拶の後、遠山文部科学大臣、樋口運営諮問会議議長、平山前学長より祝辞があ



り、高円宮殿下の首頭で乾杯が行われた。

受賞

◆大学美術館が第四十二回BCS賞

（建築業協会賞）を受賞

建築業協会は七月二十三日、全国より応募のあった作品百七件の中から「第四十二回BCS賞（建築業協会賞）」受賞作品を決定し、本学大学美術館（施工、鴻池組）を含む十九作品

（うち特別賞二作品）に同賞を授与することを発表した。

この賞は、社団法人建築業協会が、わが国建築文化の進展と地球環境の保全に寄与することを目的に、一九六〇年（昭和三十五年）から毎年、国内の優秀建築物の表彰を行っているもの。

本学は、音楽堂に続き、二年連続二度目の受賞となった。なお、表彰式は、十一月十四日に東京・パレスホテルにおいて行なわれる。

◆平成十三年度第一回運営諮問会議を開催

六月二五日に今年度最初（通算三回目）の運営諮問会議が開催された。

はじめに、澄川学長から大学改革の取組状況等について説明し、前回会議での各委員からの意見を踏まえ取りまとめた新学部等構想中間報告書を中心に審議が行われた。各委員から、既存学部との有機的な連携の重要性、大規模改修計画案や大学美術館及び音楽堂の活動の充実強化等、意見や提案が行われた。

なお、会議に先立ち、四月に更新された大学ホームページと附属図書館収蔵の音楽史料画像データベースのデモンストレーションが行われた。

◆全学教官会議を開催

七月五日、両学部教授会終了後、音楽堂において、開校以来初めてとなる全学教官会議が開催された。これは全学会議である将来構想委員会が「新学部等構想中間報告書」を取りまとめたのを機に、澄川学長から全学教官に呼びかけ開催されたものである。

会議では、学長から、「大学改革の流れは経済財政構造改革の中で急速に加速され、非常に厳しい環境にあるが、芸大は文化立国日本の一翼を担う大学として、また、国際社会で常に高い水準を保ち、世界から注目され尊敬される大学となるべく、その存在を示す必要があり、これ